

【前橋市】
校務 DX 計画

1. 校務 DX を推進する上での現状と課題

- 1.境界型ネットワークのため、ネットワーク間のデータの移動に管理職による承認が必要。
- 2.境界型ネットワークのため、学習系と校務系のデータ連携が行えない。
- 3.従来型の校務支援システムのため、保護者連絡システムとの欠席等のデータ連携が行えない。
- 4.校務支援システムの独自外字を使用しているため、外字の登録に手間がかかり、学齢簿とのデータ連携等の支障になっている。
- 5.教職員の勤怠管理等、押印と紙による処理が多く残っている。
- 6.給食センターとの連絡等に FAX を使用している。
- 7.教職員個人にメールアドレスが発行されていないため、他校との連絡等が難しい。
- 8.教職員が異動した際、セキュリティを担保しながらデータ移動することが難しい。
- 9.市町村ごとに異なる校務支援システムやネットワーク構成となるため、教職員の異動時に研修が必要となり、すぐに使い始めることが困難である。
- 9.Windows 端末本体へのデータの保存など、教職員の意識に頼る部分があり、情報漏洩のリスクがある。
- 10.ネットワークの運用・管理に多額の費用と人手がかかる。
- 11.仮想デスクトップでの作業が集中すると、処理速度が大幅に低下することがある。

2. 校務 DX を推進するための課題解決策

1. 群馬県が計画している教育基盤システムと次世代型校務支援システムの共同調達に参加することにより、以下を実現する。
 - ・次世代型校務支援システムと汎用クラウドの連携により、保護者との各種帳簿の入出力の電子化を推進する。
 - ・IPA MJ 明朝を採用することで、学齢簿や各種システムとの名簿の連携を行う。
 - ・勤怠処理等、紙に押印するシステムのデジタル化を行う。
 - ・給食センター等との連絡のデジタル化を行う。
 - ・教職員には、群馬県内の学校で利用可能なメールアドレスを発行するとともに、汎用クラウドを活用し、異動した際も同じメールアドレスを利用し、データもそのまま利用できる環境を実現する。

3. 次世代校務 DX 環境の整備について

- 1.ゼロトラストネットワーク導入により、セキュリティを確保しつつ、学習支援システム・校務支援システム・ダッシュボード間のデータ連携を行う。
- 2.教職員用端末に強力なセキュリティ対策を行うことにより、情報漏洩のリスクを低減するとともに、ネットワークの維持・管理に係るコストを低減する。
- 3.校内 Wi-Fi の高速化とともに、インターネット接続用回線の高速化を行うことで、高速でストレスなく校務処理を行えるようにする。